

令和 8 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立平岩小学校

学校長名 平林 明美

1 研究主題、研究内容・方法等について

(1) 研究主題

主体的に学び合う社会科の授業づくり

～個別の課題追究と学び合いを取り入れた単元の工夫を通して～

(2) 主題設定の理由

平成 29 年 7 月告示の小学校学習指導要領では、社会科の目標を「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のように養う。」とし、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力に関わる具体的な目標で構成されている。

また、令和 3 年中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」では、2020 年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、①個別最適な学び、②協働的な学びの実現が挙げられている。変化の激しい社会を生き抜くこれからの子どもたちには、広い視野に立ち国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことが必要である。その基礎を養う小学校社会科においては、個別の事実等に関する知識のみならず、それらを使いこなしていく力を育成することや課題を追究したり、解決したりする学習を通して「社会的な見方・考え方」を成長させていくことを主眼に置いた社会科の充実が求められる。

本校では昨年度の研究主題を、「主体的に学び合う社会科の授業づくり ～個別の課題追究と学び合いを取り入れた単元の工夫を通して～」とし、①単元構成②個別の課題追究③学び合いの三つの視点で工夫を行い、社会科における教育研究を推進してきた。その成果と課題は次のとおりである。

① 単元構成の工夫

単元の導入時に、体験活動やクイズ、実物の提示などを行うことによって、児童は単元の内容に興味をもち、主体的に学習に取り組むことができた。

一方で、単元全体を見ると、導入で設定した単元を貫く問いが、単元末の学び合いにつながっていなかったり、教師の誘導で単元を貫く問いを設定したために、児童にとって必要感のある問いになっていなかったりした。

② 個別の課題を追究するための工夫

児童アンケートの結果や授業評価票の評価から、教師が工夫したワークシートや学習コーナーは、主体的な学びにつながっていたといえる。特に、体験コーナーや動画資料などは、児童の主体性を高めるだけでなく、理解を深める点においても効果的であった。また、どの学年も付箋を活用して考えを交流する場を設けており、多様な考えに触れさせることで自分の考えを広げたり深めたりすることができていた。さらに、ICT の活用によって、教科書や資料集だけでは得ることのできない知識を獲

得することができた。

一方で、以下のような課題も明らかになった。

- ・学び合いを見据えたワークシートやコーナーになっていない。単元全体を通して、個別の課題追究で何を理解させておく必要があるのか明確にしておく必要がある。そのために、教材研究をしっかりと行い、必要な資料を提示するコーナーを設置したり、学び合いで活用するための問いをワークシートに設けたりするなど、単元全体をふまえて必要な知識は何か整理しておくべきであった。
- ・C児童への手立てを考えておく必要がある。書くことや資料の読み取りが難しい児童のために、レベル別のワークシートにするなどの工夫をしていくべきであった。

③ 学び合いの質を高めるための工夫

個別の課題追究の時間に身に付けた知識を活用して、自分の考えを伝えたり、友だちの考えと比較したりする活動を通して、児童の知識をつなげていくことにより、理解を深めることができた授業もあった。また、個別に学習しても解決できなかつたり、多様な解釈が生まれたりする内容を取り上げ、全員で考えることで、児童が主体的に学習に取り組むだけでなく、事象を多角的・多面的に捉えることができた。また、テキストマイニングツールやレーダーチャート、くらげチャートなどのツールを活用することで、児童の思考を整理したり深めたりすることができた。

一方で、学び合いの時間において、以下のような課題も明らかになった。

- ・児童の思考を深める発問が効果的でない。なぜ考えなければならないのか、何を考えさせるのか、明確な問いになっていない。児童の考えを発表させるだけでなく、児童の発言をふまえて、さらに考えを深めていくための発問を考えておく必要がある。
- ・学び合いの時間で思考する際に必要な知識・技能が、個別の課題追究の時間に十分に身に付いていない。
- ・学び合いで捉えさせたい内容が不明確な授業があった。学び合いで何を身に付けさせるのか考えて、単元全体を組む必要がある。

これらの課題から、単元全体で付けたい力や単元のねらいを明確にして単元構成を考えることが何より重要であり、そのためには深い教材研究や教材分析が欠かせないといえる。単元を考える際には、指導要領を基に単元で身に付けさせるべきことは何かを明らかにした上で、本単元における学び合いで、児童にどのようなことを捉えさせるのか、そのための発問や活動は何が最適かを検討する必要がある。そして、個別の課題追究の時間では、学び合いで必要な知識は獲得させるためにどのような資料やコーナーが効果的かを考えていく必要があることが分かった。その際には、単元で必要な知識をしっかりと身に付けられるようにするとともに、児童が主体的に学ぶことのできるワークシートや学習コーナーにするための工夫が必要であると考えられる。また、単元を通して児童が主体的に学習に取り組むためには、本単元でのゴールに向かうための問いや言語活動をより吟味した導入を仕組んでいく必要があることも分かった。

(3) 研究仮説

単元の中で、意図的に個別に課題を追究する時間と学び合いの時間を設定し、児童が主体的に考える授業を創り出せば、児童は社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる社会的な見方・考え方を獲得することができるであろう。

(4) 研究内容

以上の点を踏まえ、「主体的に学び合う社会科の授業づくり～個別の課題追究と学び合いを取り入れた単元の工夫を通して～」のさらなる具現化に向けて、今年度は以下のことに取り組みたい。また、低学年部・特別支援部は児童の実態に合わせて教科を選択し、同様の工夫をしていく。

①単元構成の工夫

- ・教材研究や教材分析を丁寧に行う。(指導要領・児童の実態・指導の工夫を表に整理する。)
- ・単元や本時における児童に身に付けさせたい知識を明確に設定し、どのような記述的知識、説明的知識、概念的知識なのか整理し、知識の構造図としてまとめる。
- ・単元内容や児童の実態によって、個別の課題追究の時間を二回設けたり、学び合いの後に個別の課題追究の時間を設定したりするなどの工夫をする。
- ・何を身に付けさせる時間なのかを明らかにして、授業を構成する。(学び合いの時間で何を児童につかませるかをまず考え、逆向き設計で授業を組み立てていく。)
- ・単元を貫く問いを設定する時間を工夫する。導入時の一斉授業で、児童がその単元を学びたいと思えるような資料提示や活動を行い、単元の見通しをもたせる。

②個別の課題追究の時間における工夫

- ・単元全体で何を身に付けさせるための学習コーナーやワークシートなのか、ねらいを明確にして知識を獲得させる。
- ・ワークシートや学習コーナーでは、児童が学びたくなるように工夫する。(指示の出し方、体験活動、友だちと話し合っって考える場面の設定など)
- ・ICTを効果的に活用する。
- ・学習内容の振り返りを毎時間行い、修正を図る。

③学び合いの質を高めるための工夫

- ・児童の考えを深めるための質の高い問いを設定する。
- ・選択、判断、評価、議論なども含めた多様な思考のさせ方を取り入れた対話・協働場面を設定する。
- ・児童の思考を整理したり深めたりするために、思考ツール等を活用する。

(5) 検証の方法及び指標

検証の視点	方法	検証の指標	達成目標
主体的な学びにつながる導入・単元構成 個別の課題追究の手立て 学び合いの質を高めるための手立て	授業評価票	教師の肯定的評価	評価票 3 以上
児童の基礎学力の定着	単元末テスト	思考・判断・表現 知識・理解 を問う問題	正答率 80%以上の児童を 学級の 8 割以上
単元で付けたい力の定着	児童のまとめや 振り返りの内容	児童の記述	目指すまとめや振り返り ができる児童 80%以上
児童の意識	児童アンケート	児童の肯定的評価	児童の肯定的評価 3 以上

2 検証計画

検証時期	検証内容	検証方法
7月～12月	校内研究授業 単元終了後	研究協議・授業評価票・児童のまとめや振り返り 児童アンケート・単元末テスト
12月～1月	研究のまとめ 成果と課題の分析	児童アンケート・単元テスト 授業評価票・児童のまとめや振り返り

3 校内研修計画

日にち	研修スタイル	主な研修内容	指導者
4月	研究推進委員会	校内研修計画・研究主題について 昨年度の研究の振り返り	
5月	全体研修（研究開き）	今年度の研究主題について 校内研修計画について	研究主任
6月	全体研修（理論研修）	個別の課題追究について 社会科の授業作りについて 研究授業内容決定 教材研究	指導主事 教務研修部
7月 夏休み中	全体研修 全体研修 ブロック研修	指導案について 研究授業（6年部） 各ブロックでの研修 【低学年、3・5学年、4・6学年、特別支援】	研究主任 教務研修部・指導主事
8月	ブロック研修	教材研究 指導案検討（日程については後日提案）	教務研修部
9月	全体研修	研究授業	教務研修部・指導主事
10月	ブロック研修 全体研修	研究授業 研究授業	教務研修部・指導主事 教務研修部・指導主事
11月	ブロック研修	研究授業	教務研修部・指導主事
12月	ブロック研修 全体研修 全体研修	研究授業 研究授業 研究紀要について	教務研修部・指導主事 教務研修部・指導主事 研究主任
1月	全体研修・ブロック研修	研究紀要見直し・まとめ	教務研修部
2月	全体研修	研究のまとめなど	指導主事・研究主任
3月	全体研修	今年度の振り返りと来年度へ向けて	研究主任